

12. 文化・芸術

	タイトル	意見等
1	藍場浜西公園エリアにおける新ホール早期整備プランについて	○ 都市公園法に基づく藍場西公園には建築物が建築できない法令上の制限がある⇒都市計画法並びに建築基準法の違反になる。 ○ 藍場西公園エリアにおける新ホール早期整備プランは唐突で拙速な中途半端なプランであり、結局は「安物買いの銭失い」となる。⇒白紙撤回しかない ※ 松任谷由実、中島みゆき、山下達郎、BZ、CHAGE & ASKA、サザンオールスターズ、ドリームカムトゥルー、矢沢永吉、布袋寅泰などの大物アーティストの公演の開催は不可能である。 ※ 後藤田正純徳島県知事は令和6年4月26日に、一体何の目的でカナモトホール(札幌市民ホール)を視察しましたか？ 疑問です。 ※ 徳島県が地方創生戦国時代において、香川県県民ホールレグザムホール、兵庫県立芸術文化センター、岡山芸術創造劇場ハレルヤ、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールなどと勝負にならない。
2	藍場西公園エリアにおける新ホール早期整備プランについて	○徳島県民一人一人が望む広くて立派で良い新ホールにするためには、予算、用地買収、設計協議のすべてに涉って、白紙撤回による検証の事業仕分けが必要である。 ※ 藍場西公園エリアにおける新ホール早期整備プランは杜撰で早急である。 ⇒ 徳島県民一人一人の声は蔑ろにされた 無視された。 ⇒ 徳島県議会の議会の承諾及び徳島市議会の議会の承諾がなされていない。
3	藍場西公園エリアにおける新ホール早期整備プランについて	○藍場西公園エリアにおける新ホール早期整備プランは、徳島県民一人一人の心を踏みにじった根拠のない強引・唐突・拙速・早急な政治手法に断固反対する。 ※ レッドカード！ 失格退場処分！
4	藍場西公園エリアにおける新ホール早期整備プラン	○ 後藤田正純徳島県知事が徳島県民一人一人と約束した「徳島県民一人一人が主役の県政」における「ワンチーム徳島」、「オール徳島」の構築ができていない。 ※ 後藤田正純徳島県知事は公開討論会を開催しなければならない。
5	観光客誘致について	香港便が減便になるとのことですが、海外の観光客誘致には徳島城再建が最も重要だと思います。 近年文化庁で城の再興につき条件が緩和されたのは喜ばしいことです。 まず貴重な写真の残る月見櫓を復元し内部に昇れるようにすると、鷲の門からも目に留まり、阿波踊りをするのにも見栄えが良く、徳島藩の歴史を感じることができるでしょう。